

〔カンショ〕

1. 作付の概況

2016年度の全国の作付面積は36,000ha、このうち九州は17,600ha、沖縄は294haであった。前年度に比べ、全国では600haの減、九州では300haの減、沖縄は31haの増であった。九州では作付面積が減少している県が多いが、大分県、宮崎県および沖縄県では作付面積が増加し、それぞれ前年比101%、104%、112%となった。全国の10a当たり収量は2,390kgで、前年産との対比で8%上回った。これは、九州地域においておおむね天候に恵まれ、生育が良好となったためである。収穫量は860,700tで、前年産に比べて46,500t増加した（同6%増）。

2. 作柄の概況

鹿児島県では、生育期間を通じて平均気温は高めに推移し、特に9月中旬～10月下旬は平年比で2～3℃高く、3月～11月の積算平均気温は平年を大きく上回った。降水量は平年を大きく上回り、特に4月下旬～5月上旬、6月中旬～7月上旬はかなり多かったが、7月下旬～8月下旬は少なかった。日照時間も6月は平年より少なかったが、7月～8月は7月中旬を除いて平年を上回り、積算ではほぼ平年並みであった。このため、地上部の生育やいもの肥大はおおむね良好であった。本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,690kgで、前年産を13%上回り、平均収量対比は107%と高かった。また、収穫量は322,800tで、前年に比べて27,700t（9%）上回った。

宮崎県では、生育期間を通じて平均気温はやや高めに推移し、特に5月下旬、8月中旬、9月下旬～10月上旬および10月下旬は平年比で2～4℃高く、3月～11月の積算平均気温は平年を大きく上回った。降水量は平年よりかなり多く、特に6月中旬～7月中旬および9月中旬が多かった。日照時間は6月～7月は平年より少なかったが、8月～9月は、9月中旬を除いてほぼ平年並みであり、8月中旬～下旬は平年を大きく上回った。このため、積算では平年を下回ったが、地上部の生育やいもの肥大は悪くなかった。宮崎県の10a当たり収量は2,570kgで、前年産を4%上回り、平均収量対比は100%であった。収穫量は92,300tで、前年に比べて150t（4%）増加した。

（九州沖縄農業研究センター畑作研究領域 甲斐 由美）

2016年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					
				作付面積		10a当たり 収量		収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比	
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)		
全国	36,000	2,390	860,700	△ 600	98	108	46,500	106	
九州	17,600	—	—	△ 300	98	—	—	—	
福岡	145	—	—	△ 4	97	—	—	—	
佐賀	89	—	—	△ 6	94	—	—	—	
長崎	339	—	—	△ 16	95	—	—	—	
熊本	1,020	2,230	22,700	△ 50	95	100	△ 1,100	95	
大分	366	—	—	4	101	—	—	—	
宮崎	3,590	2,570	92,300	150	104	104	7,300	109	
鹿児島	12,000	2,690	322,800	△ 400	97	113	27,700	109	
沖縄	294	—	—	31	112	—	—	—	

注)平成28年産かんしょの作付面積及び収穫量(農林水産省大臣官房統計部 平成29年2月7日公表)に基づいて作成